

脱原発四日市市民の集い



活動紹介

■活動場所

四日市公害と環境未来館活動室
中部地区市民センターなど

■活動日

ほぼ毎月（主に第3日曜日に）事務局会議
3月・9月に市民集会（学習会）や街頭活動

■活動内容

- 3月2日（土）福島県在住の山崎健一さんのお話をきく会
「3・11を忘れないー原発事故はいつでも、どこでもー」
＊一度はエコパートナー事業として採択された企画です。
- 9月15日（日）原発ゼロを求める市民集会とデモ
おしどりマコ・ケンの原発取材報告（映像）とリレートーク
＊映像は「さようなら原発三重パレード 2024」での録画です。
- 12月14日（土）環境フェアに出展
「原発ゼロ、自然エネルギーへの道を求めて」



代表者の想い

「福島原発災害は史上最大最悪の公害である」。これは四日市公害裁判で大変お世話になった宮本憲一先生（大阪市立大学名誉教授、元滋賀大学学長）の言葉です。

私たちはこの言葉を少し縮め「原発事故は最大の公害である」という標語を掲げて脱原発の啓発活動を行っています。

四日市市にとって福島で起きた原発事故の悲劇は他人事ではありません。福島原発から放射能が漏れ出したとき、主たる風下でもなく 300km も離れていた神奈川県で、特産の「足柄茶」から規制値を超える放射性物質が検出され、出荷制限を受ける事態となったことは衝撃でした。なぜなら「原発銀座」と呼ばれる若狭湾岸と四日市はわずか 90km しか離れておらず、冬期の季節風の「風下」に位置しているからです。そのとき「水沢茶」はどうなるのか、四日市の水は…。

この危機感を共有していただきたいと思います。活動を続けています。起きてからでは遅いのです。起きる前に立ち上がらなくてはなりません。原発ゼロに向けて！

＊ちなみに、2023 年の「公害資料館連携フォーラム」は福島で行なわれ、「福島を経験を継承する」ことが謳われ、浜通りの現地見学などが行なわれました。

PR

会員制ではないので会費はいただいていません。市民有志の賛同拠金（カンパ）により運営されています。どなたでも参加歓迎です。特に若い方（といっても U70）の参加を期待しています。

明日の四日市のために。